



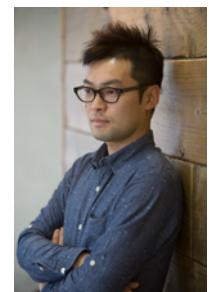
Architecture
Presentasion

architect
Kazuki Iizuka

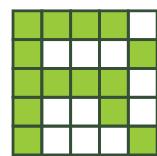
Bauhaus Project



イイヅカカズキ建築事務所



建築家と建てる家を、
身近に、手軽に



2年連続
[建築家住宅]
新築供給数 全国
No.1

※建築家住宅(建築士の資格を持つ独立した建築家により基本設計された住宅)
主要供給事業者7社における2017年度、2018年度新築供給数
(株)矢野経済研究所調べ/2019年8月現在





担当建築家 飯塚 一樹 イイヅカカズキ建築事務所@新潟県 lizuka Kazuki

建築家は単なる見た目のデザイン、視覚的なデザインではなく、建築家自らの美的見地や論理的な分析に基づいて建物の設計（デザイン）をします。

また、近年は都市を総合的なデザインとして見る考え方方が広がってきており、建築家には物事を総合的に見ることのできるバランスの良さが求められています。建築家としてこのようなデザインセンスとアイデアはもちろん大切ですが、私が考える建築家の存在価値は「お客様の代理人」であることです。自らが施主であるという目線で、建物、人に愛情を持って接するとともに、専門的な目線からお客様のメリットを第一に追い求めます。建物という題材を通して、お客様と建築家がお互いの価値観を認め合い、イメージを共有し、いかにお客様の気持ちになって一生懸命になれるのか。お客様、施工会社と一緒に知恵を出し合い、全員で作り上げていくことをこれからも心掛けていきたいと思います。

Profile

1977年 新潟県生まれ

2000年 工学院大学工学部第一建築学科建築学コース卒業

2000年 新潟県内設計事務所勤務

2007年 イイヅカカズキ建築事務所設立

1 F

敷地面積：58.53坪 (193.52 m²)

2 F

1階床面積：22.04坪 (72.87 m²)

2階床面積：7.26坪 (24.01 m²)

延床面積：29.30坪 (96.88 m²)



楽しさに包まれる家

POINT①

1階で生活が済むようにしたいが1階が広くなる分
コストが心配。建築家の解決法とは？

POINT②

隣の住宅からの視線が心配・・どう避ける？

POINT③

「書斎」でもない、「個室」でもない
だけど落ち着いて趣味が楽しめる秘密の部屋

POINT④

室内と家族を繋ぐ「ハコニワ」

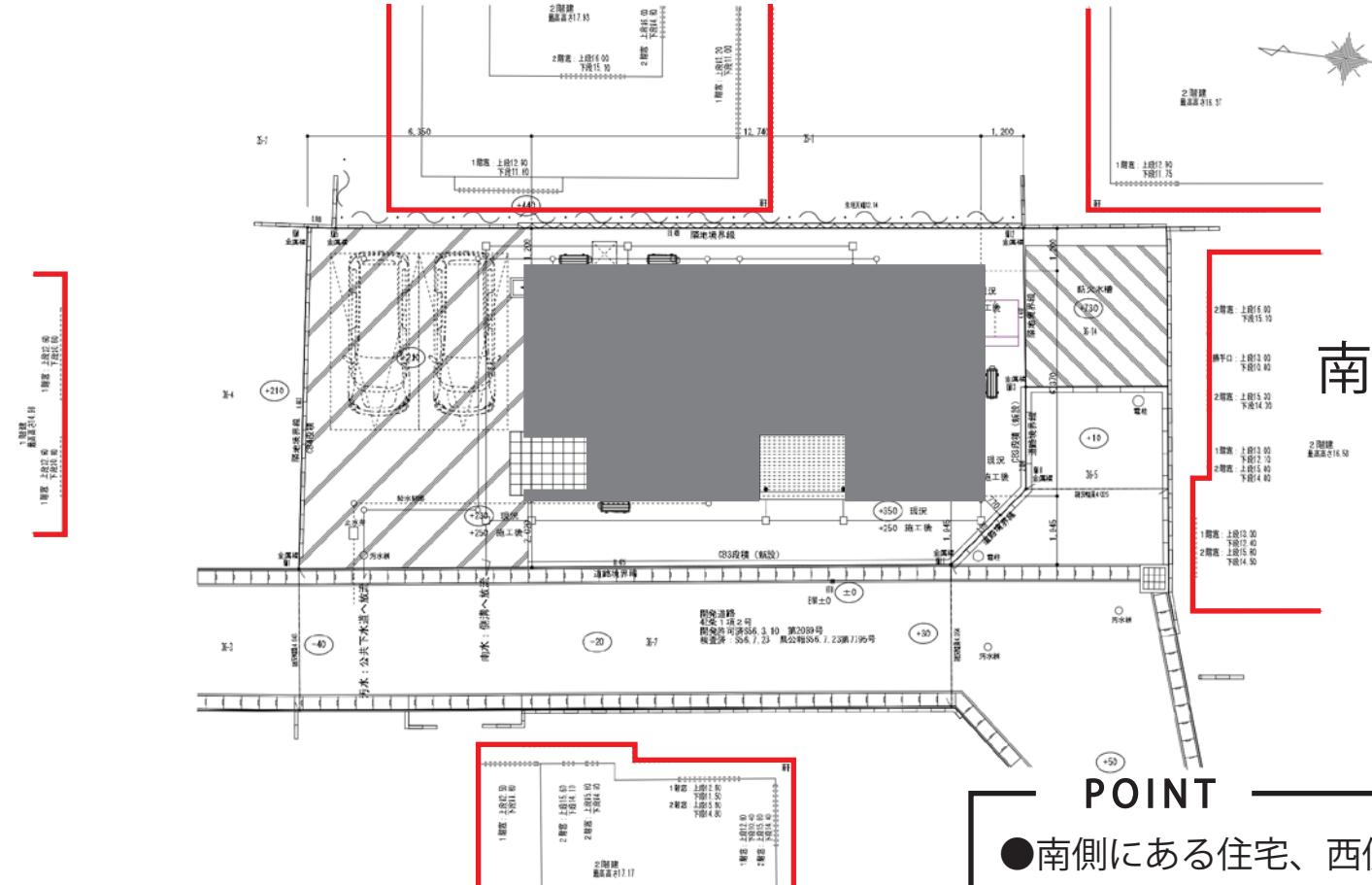
配置計画

東

北

西

南



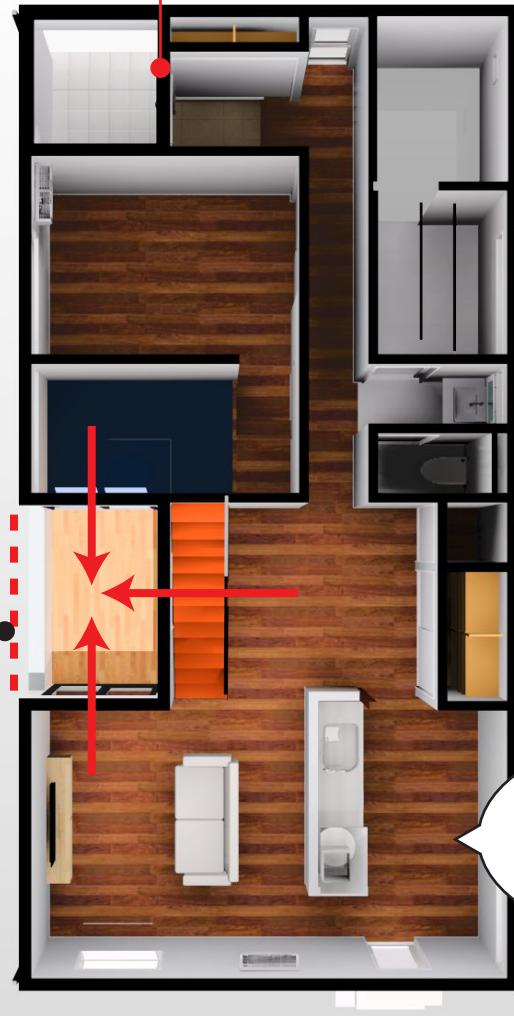
隣家の位置、玄関や窓の位置、高さ等も計測します。そのデータをもとに建築家は現地を調査し、視線・風の抜け方・光の入り方、隣家や周辺からの見え方等を総合的に見て、その敷地に合ったベストな設計をします。

POINT

- 南側にある住宅、西側道路からの視線が気になる・・
室内の開放感も妥協せず外からの視線も遮る窓配置
- 視線を気にせず楽しめるハコニワ
- 1階に光を十分に採り入れるために、東側に寄せた2階部分

玄関ポーチを壁で囲むことで、家に入りするときなど室内が丸見えにならず、プライバシー性に優れている

玄関ドア



1F

リビング

とにかく広げるリビング！ゴロゴロ～とできるような・・・家族が個室にこもったりせず、自然とリビングに集まつたり、リビングから各部屋にいる家族の気配が感じ取れるようなリビングが良いですね。

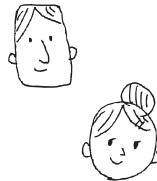
でも、道路沿いだから車からの視線が気になるかも。

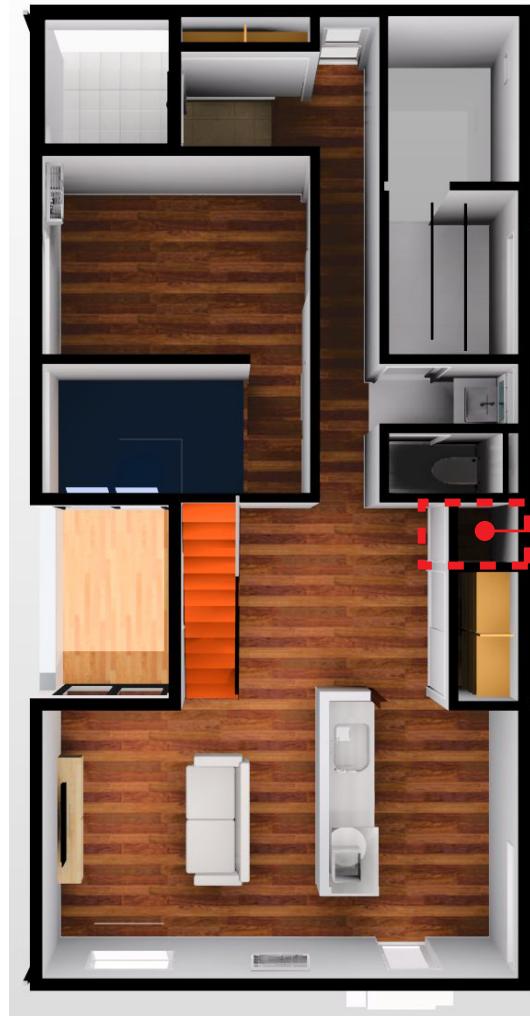
建築家 POINT
要望 + α の提案

大きな吹き抜けを創ったことで2階にいる家族の気配や音などもリビングにいながら感じ取ることができ、リビング、キッチン、ダイニングから2階に目線が届くように設計しました。

「ハコニワ（中庭）はご希望では無かったですが、この位置に中庭があることで、リビングと寝室を繋ぐこともできますし、洗濯物を干したり、中庭で日光浴をしたり、寝室側から中庭が見えたり・・・多様な使い方と楽しみ方ができます。

さらに、中庭の壁で通行人や車から室内が見えることはないので、気にされていた視線の問題も解決できます。中庭の上から光が室内に入るので、日当たりも良いし、風も通るので、より快適なLDKになります。





1F



和室



仏壇を将来、置くことになると思うから和室が欲しいと思ってます。



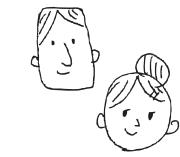
生活を1階で完結させたいというご要望があったので、和室も1階に作るとコストオーバーになるかもしれません。「仏壇を置く」という他に何に使いますか？



漠然と仏壇=和室と思っていただけで、強いて言うなら客間かなあ・・・でも、来客はほとんど無いです。



それであれば、もし和室を作ったとしても勿体ないので「和室」に拘らず「仏壇スペース」として「置き場所」を作つてあげた方が良いと思います。そうすれば仏壇を置くまでの期間は他の物を置く場所としても使えますし、スペースも取らないのでコスト面も安心です。



なるほど！考え付かなかつた・・・それで充分です！

建築家 POINT

無駄を省き

住み手の本当の要望を反映させる



1F

寝室・書斎



書斎というか・・パソコンゲームとか、音楽を聴いたりとかちょっとこもれる「自分の場所」が寝室の脇に欲しいです。



初めは、北側に書斎をもってこようと思ったんですが、中庭側に寄せたことによって、リビングからも行けるようになるし、外を見ながらパソコン等できるので、よりリラックスして趣味を楽しめるのではないかと思います。

リビング側の窓からも書斎の様子がなんとなくわかるので、お互いに違うことをしていても、ご要望だった「家族の繋がり」も感じただけます。

建築家 POINT
見た目だけでなく生活もデザインする



床下を収納にされたいというご要望もありましたが床が上がる分、天井が低くなってしまいますので着替えなどされる場合は不便かと思います。

寝室の床とフラットでも良いというお話をしたが、階段をつけることで、より「特別感」が演出できるので階段であがるようにしました。



スーツとかも置いておきたいし、着替えもできたほうが良いので床下収納は無しでOKです。中庭に面しているのも良いですね！気持ちよさそ



1F



キッチン・水回り



キッチンは散らかってても、あんまり目立たない感じが良いです。料理中はテレビが見えたり、家族と会話しやすかったりが理想。「こもって料理」より「オープン」なイメージです。



キッチンからはリビングの様子も、テレビも、2階の様子も分かるような配置です。行き止まりの無い、グルグル回れる動線で料理の配膳や片付けもしやすいです。また、洗濯動線もキッチンから最短の距離にしていますので、無駄な動きが無く家事全般がしやすい動線になっています。

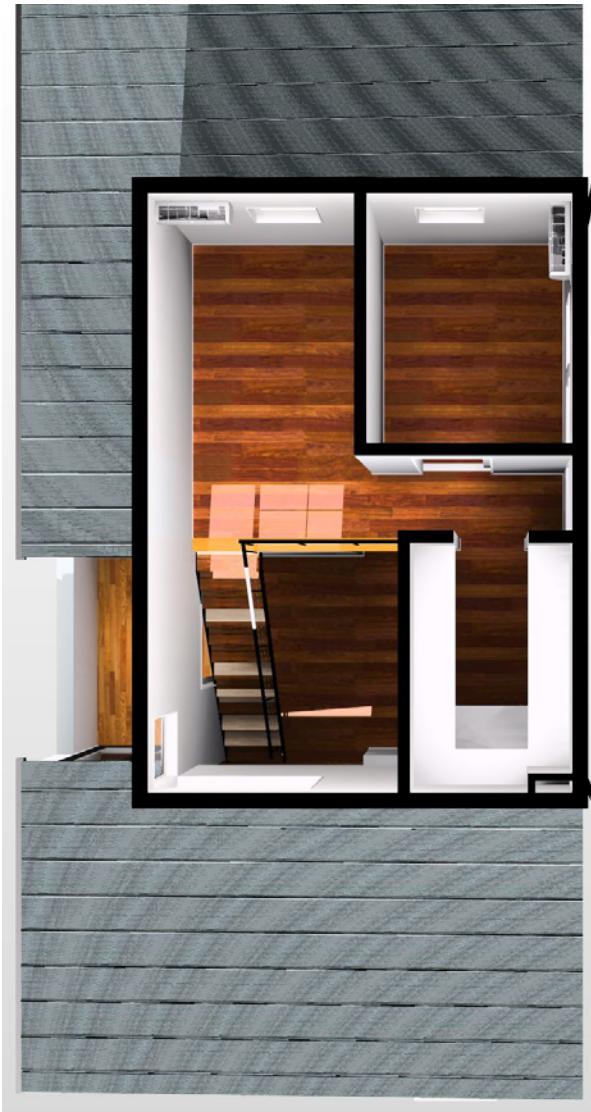
建築家 POINT 周辺環境も考慮した間取り提案



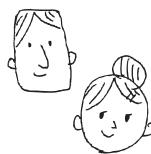
隣家を気にされていた南側ですが、窓は小さくありませんが隣家の窓位置と、コチラの生活空間を考慮し、お互いの視線がかぶらない位置に窓をつけています。外からの視線を気にせず、のびのびと生活できますよ。

南側

LDKの向きを南向きにしていないのは南側の隣家からの視線と被らせない為



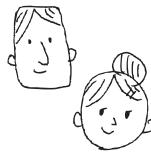
2F



2階はあまり重要視していません。
将来的には子ども部屋にしようとは思っています。



そうですね。ご夫婦の生活は1階で完結できるようにというご要望でしたので2階は1階にどうしても必要では無い部屋です。
しかし、2階全ての部屋を将来の子供部屋として区切ってしまうと「それまでは使わない部屋」になってしまい勿体ないので、子ども部屋として使わないうちはセカンドリビングとして使えるようにオープンにしておいたほうが無駄なく使えますよ。



そうですね・・確かにオープンにしたほうが使いやすそうだけど子ども部屋はしっかり区切りたいでのちのちするより、建てるときに一緒にしてほしいかな。

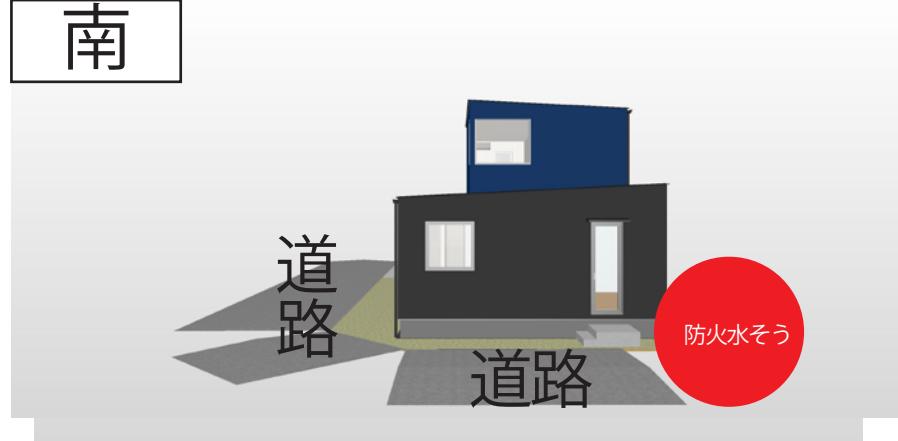


建築家 POINT
可変性のある間取り

分かりました！では、片方の部屋は完全個室にして、片方はオープンにしたらどうでしょう。
お子さんの年齢差によって子ども部屋の使い方は変わってくるので、完全に二つに分けてしまうより良いと思います。
将来のこととは分かりませんので、そのときになってカタチを変えられるようにしましょう。

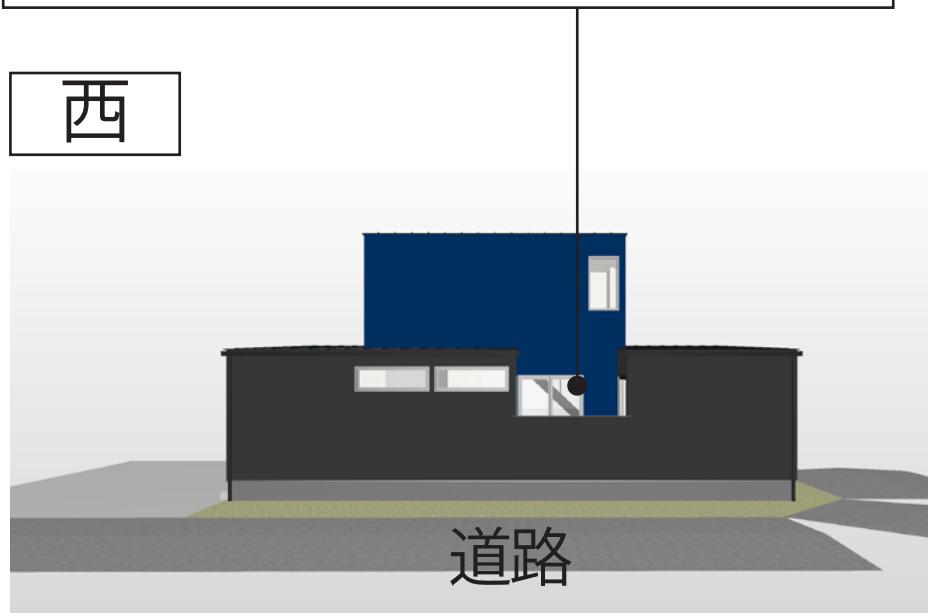
土地の南際に道路、防火水そうがあり、隣家に対しても圧迫感を与えにくいため、土地の南側に建物を寄せた。窓は隣家の窓位置を計算し、視線がお互いにぶつからない位置に配置。

南



道路側であり、道路を挟み目の前が住宅ということもあり、窓は外からの目線が入らないように高めに。
また、中庭の壁で視線は遮るが室内への風や光はしっかりと入ってくる。

西

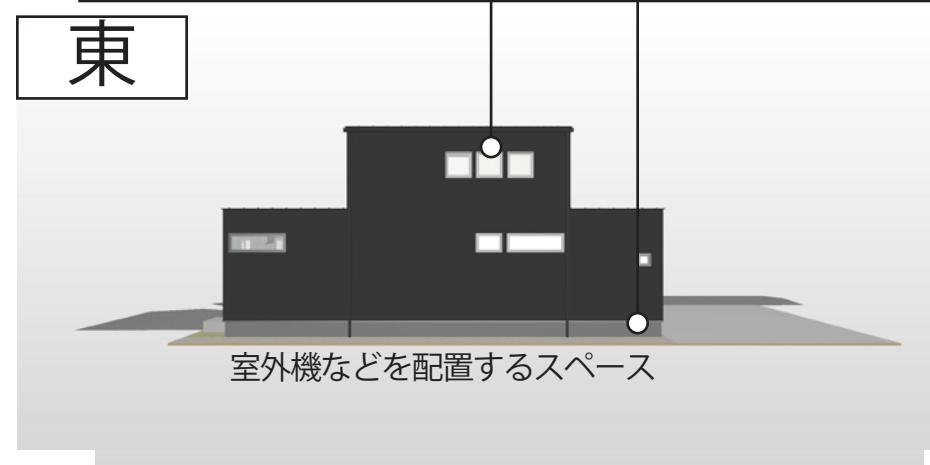


東側は隣家の植木もあり、外からは見えない部分。

表に見せたくない室外機などを置くスペース。

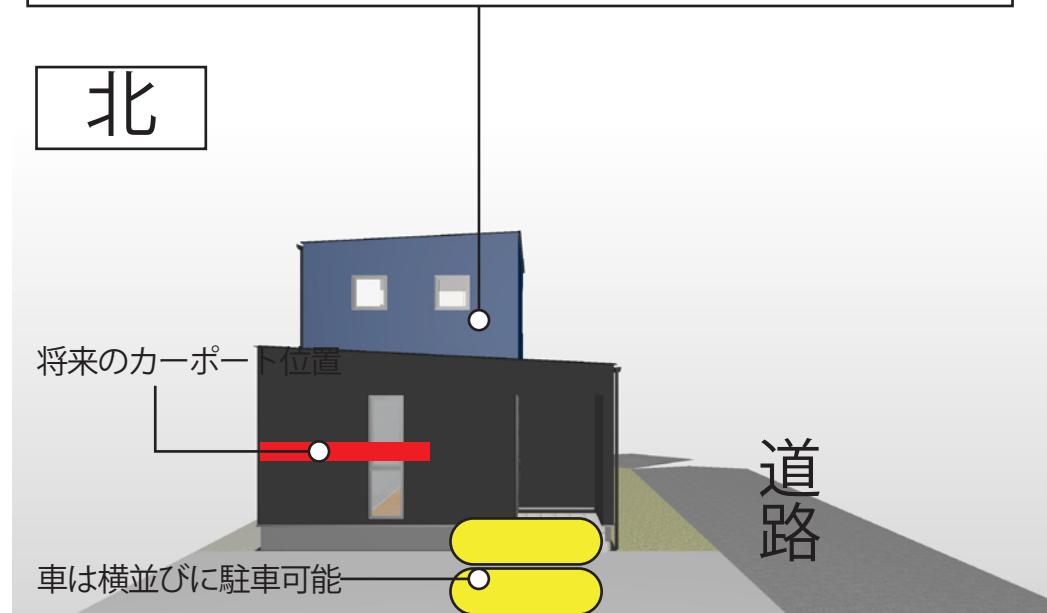
2階は3つの窓をバランス良く配置し、遠くから建物の2階部分が美しく見えるようにデザインされている。

東



土地と建物のボリューム・配置を考慮しベストな駐車位置。
道路側から丸見えになりにくく、将来カーポートを設置することも可能、建物のデザインを損ねないような位置に配置できる。

北



熊本市風配図

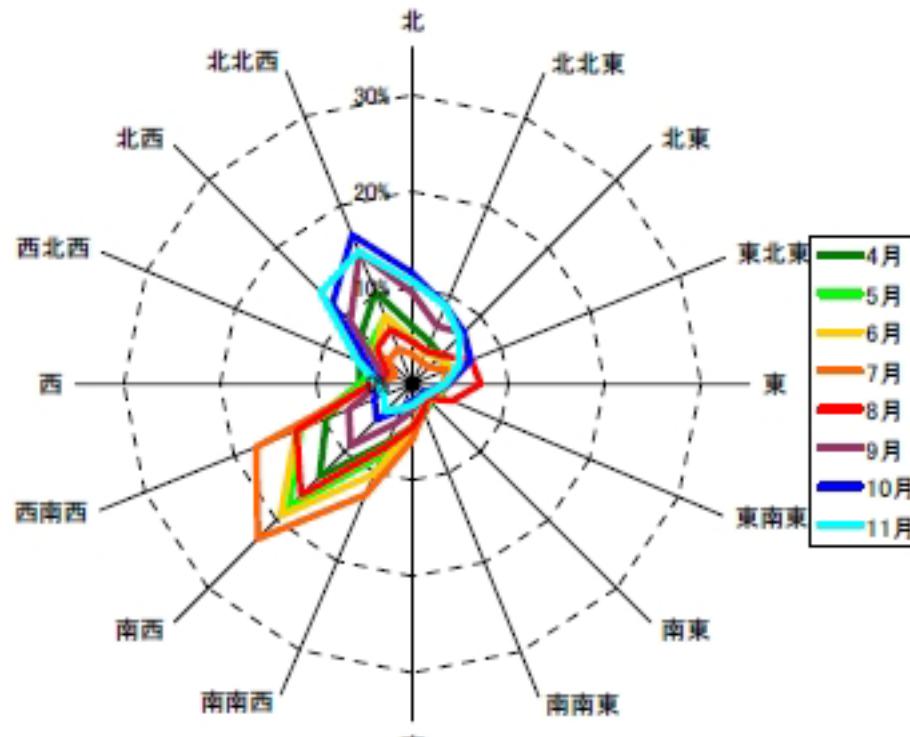


図4a 月別風配図(起居時)

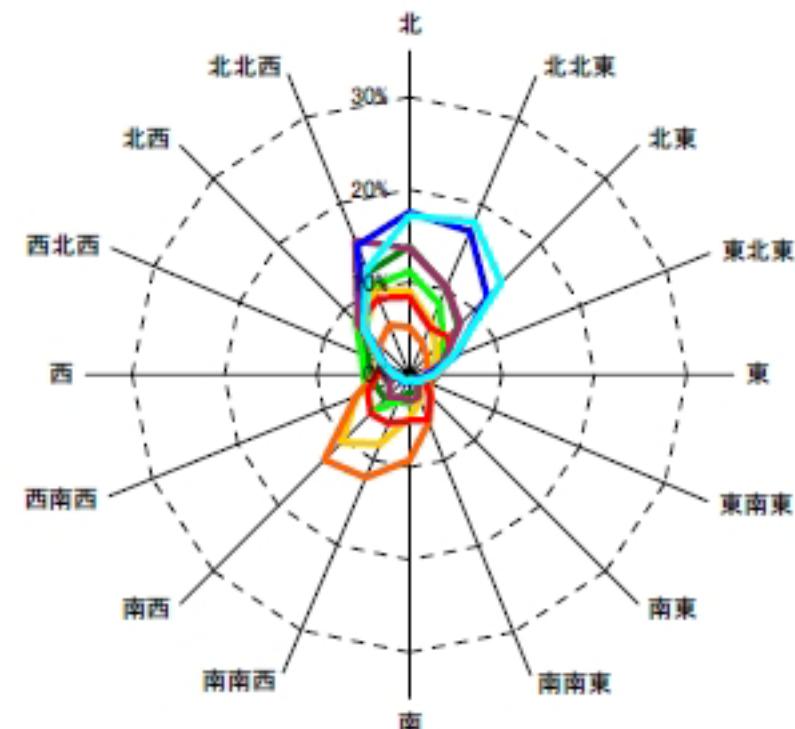
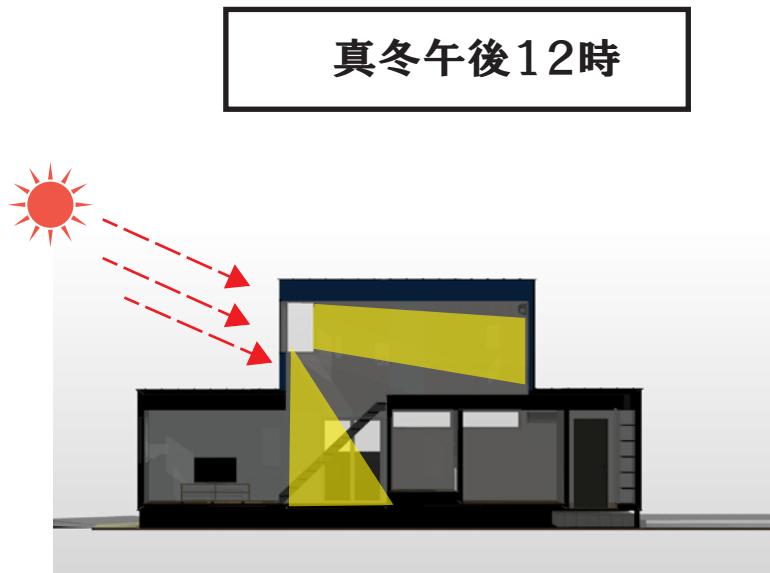


図4b 月別風配図(就寝時)

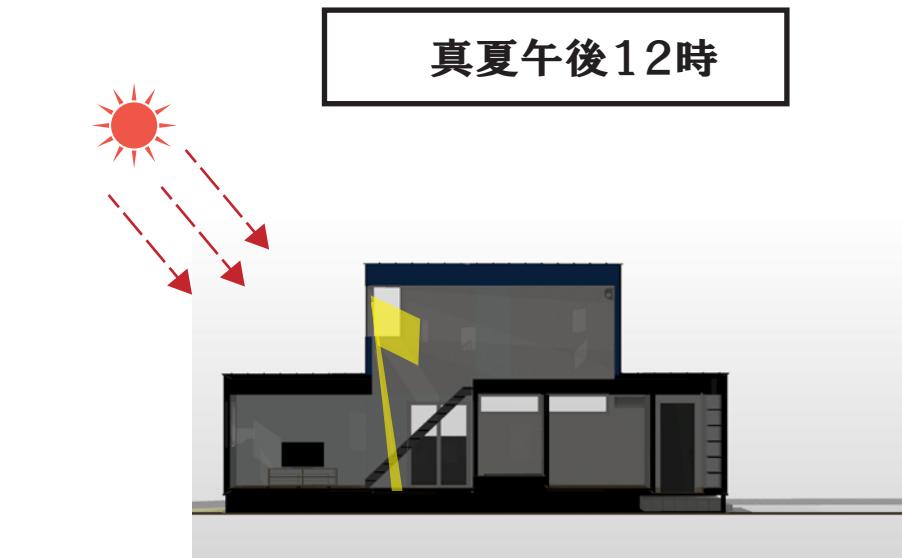
風配図とは、各方位の風向および風速の頻度を表した図です。

建築家は周辺の建物や環境を実際に目で見て、データと照らし合わせながら風の向きや、入り方なども計算して「窓の配置」「窓の種類」「建物の配置」を決めていきます。

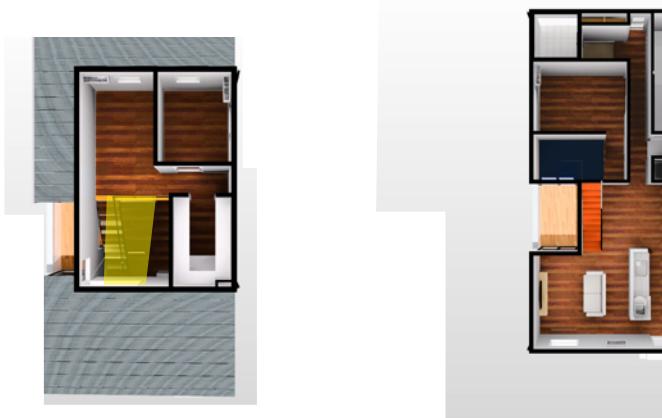
冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく
自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。



(冬至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が低くなる為、太陽が西に傾く頃、窓から部屋の奥まで暖かい光を取り込むことができる。



(夏至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が最も高くなる為、軒を出して日射を遮り、室温の上昇を抑える。



夏と冬では太陽の位置が異なります。建築家は季節ごとに変わる太陽の動きも熟知した上で設計します。